

短期予報解説資料 2026年1月31日15時40分発表

気象庁

1. 実況上の着目点

- ① 日本付近は冬型の気圧配置が継続。850hPaで -6°C 以下の下層寒気は西日本付近～東日本太平洋側にほとんど停滞。北～東日本日本海側では、3時間で5cm前後の降雪を観測。北～東日本日本海側では、積雪の深さが平年比200%以上となっている所がある。
- ② 停滞前線と前線上の低気圧が、南西諸島付近を東進。周辺では激しい雨を解析。
- ③ 北～東日本では①の冬型の気圧配置の影響で、南西諸島付近では②の低気圧や前線の影響で、気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き波が高くなりしけている所がある。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 2月1日にかけて、日本付近は冬型の気圧配置が続く。また、31日夜までに日本海で発生するシアラインが、2月1日にかけて北陸付近を指向、2月1日朝までに北海道の西で発生する低気圧が、夜にかけて北海道付近に進む。
- ② 2月2日は、500hPa 5340m付近で -30°C 以下の寒気を伴うトラフに対応して、低気圧が朝鮮半島付近から若狭湾付近に進む。また、500hPa 5220m付近のトラフが北日本付近を通過する。
- ③ 1項②の前線と低気圧は、2月1日朝にかけて日本の南に進み、夜までに不明瞭になる。
- ④ 850hPaで -6°C 以下の下層寒気は、2月1日にかけて本州の太平洋側にほとんど停滞、2月2日は、西日本では日中日本海側まで北上するが、夜には再び太平洋側に南下、東日本では中部山岳付近にほとんど停滞する。2項①②の冬型の気圧配置やシアライン及び低気圧と、上空や下層の寒気の影響で、北～東日本の日本海側では2月2日にかけて、西日本の日本海側では2月2日は、降雪が強まる所があり、大気の状態が不安定になる所がある。大雪による交通障害に注意・警戒し、着雪やなだれ、落雷や突風、降ひょうに注意。
- ⑤ 2項③の低気圧や前線の影響で、南西諸島では2月1日にかけて、大気の状態が不安定になり、激しい雨の降る所がある。落雷や突風、降ひょう、短時間強雨に注意。
- ⑥ 2項①～③の冬型の気圧配置や低気圧の影響で、気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き波が高くなりしける所がある。北～東日本と南西諸島では2月2日にかけて、西日本では31日と2月2日は、強風や風雪、高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項〔量的予報等〕

- ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
- ② 降雪量(18時からの24時間)：北陸60、東北50、北海道30cm。
- ③ 波浪(明日まで)：伊豆諸島・沖縄4、北海道・東北・北陸・近畿3m。
- ④ 高潮(明日まで)：大潮の時期。北日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無

発表の予定はない。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。